

於集電腦女流詩人
交流向上百花繚乱
詩的空間月每更新
隨時求新同胞以愛

蘭

Web 女流詩人の蘭の会

http://www.os.rim.or.jp/~orchid/

Y1575(税込み)
発行：詩人社
著：RADIO DAYS ココロームでも好評販売中
アンソロジー

就労支援カフェ事業インターンシップ。アートの現場で働いてみよう!!

PPPPC.B.N. cocoroom booking night ブックイングマネージャー募集!!

出来る事から動かしてゆく
動かしながら考える
アートマネージメントの第一歩へ

ココルームカフェも
スタッフもどむ

※cocoroom@kanayo-net.comまで

ぼえ犬通信
17

ぼえ犬通信

FREE
ココローム 犬大...
特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋
http://www.kanayo-net.com/cocoroom/

Cocoroomでは、寄付をつっています。

運営のための寄付をつっています。ご寄付いただいた方には、お名前を「ぼえ犬通信」に掲載させていただきます。3000円/1口 何口でも結構です。

宮前さん様 ありがとうございます。

三井住友銀行 天王寺駅前支店 普通1585265
トクティエイリカツドウホウジンコトバココロム/ハヤ

郵便振替 記号01090-5-48059
cocoroom代表 ウエダカナヨ

むすびプロジェクト

NHK総合「関西クローズアップ」
にむすびが取り上げられました!

「むすび」とは、日雇い労働者の街・釜ヶ崎で活動する平均年齢74歳のおじさんたちによるサークル。手作り紙芝居による公演で、観る人に笑いと感動を与え続けています。

*一緒に紙芝居をやってくれる仲間*絵を書いたり、道具をつくったりお手伝いをしてくださる方*事務所を訪れてメンバーと気軽に話してください。

ブログ: <http://musubiproj.exblog.jp/>
※紙芝居・釜ヶ崎見学ツアーの申込みは
ココルーム むすびプロジェクト係

cocoroomが
ますます使いやすくなって 劇団バック「co屋」

co屋5日間パック(木金土日)15万円
co屋4日間パック(木金土日・金土日)13万円
co屋3日間パック(金土日)10万円
co屋2日間パック(土日)8万円

1日利用の場合:5万円/1日(夕方17:00からの使用は3万円)
info:ココルーム tel.06-6636-1612
tel&fax06-6636-1662
cocoroom@kanayo-net.com
担当:飯島、阿佐田、上田、劔(つるぎ)

- *ステージ数問わず一律料金
- *使用時間10:00~22:30*仕込・ばらし含む
- *月曜は18:00まで*機材管理料含む
(音響スタッフはつきません)
- *稽古使用は3万円*その他の曜日でも可
- *お客様には入場の際1ドリンク(500円)別途必要
- *情宣協力いたします!

- キャバ椅子席:60 ●舞台スペース6×6m
- 音響システム完備 ●照明:調光3系統(店舗用)
- 定める使用規定にもとづいてください。
- くわしくはココルームまでお問い合わせください。

■新世界アーツパーク <http://www.sap-s.jp>
パートナー依頼/ココルームでフライヤーやフリーペーパー配布協力いたします。また、「ぼえ犬通信」を配布させていただけるお店の方、ご連絡下さい。

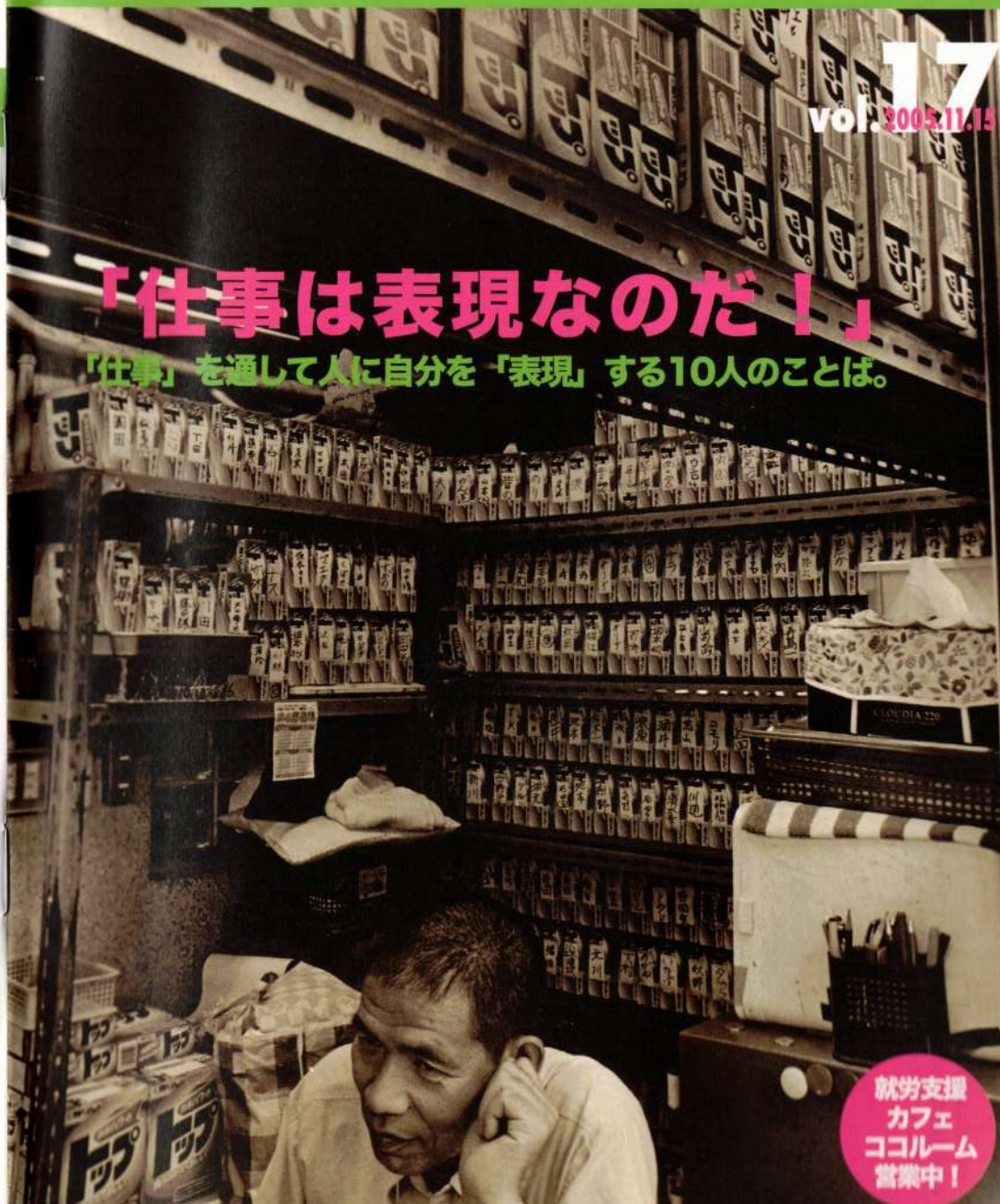
特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

ココローム

zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3-4-36
フェスティバルゲート4F
tel.06-6636-1612 tel&fax. 06-6636-1662
<http://www.kanayo-net.com/cocoroom/>

※地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結
※大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
※JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ
※南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分
※阪堺電軌鉄道「南露町駅」下車 徒歩すぐ
※駐車場(有料)

特集 仕事は表現なのだ!
<http://www.kanayo-net.com/cocoroom/> ぼえ犬通信
第17号 2005年11月15日発行 編集・発行 特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋
2005 © cocoroom All Rights Reserved



「仕事は表現なのだ!」
「仕事」を通して人に自分を「表現」する10人のことば。

就労支援
カフェ
ココルーム
営業中!

表紙写真：野田 正明
釜ヶ崎銀座通りを歩くと一軒のコインランドリーが目に行く。綺麗に並んだ真っ赤な箱。中に入ると棚には「トップ」のボトルケース。労働者の汗を洗い流してくれる。名札の彼らには敬意を覚えた。



03 | 特集：仕事は表現なのだ！

- 03 | 赤澤清孝(きょうとNPOセンター事務局次長)
- 03 | 橋爪明日香(OurPlanet-TV)
- 04 | 中村純(詩人)
- 04 | 六車義方(発明家)
- 05 | 山納洋(メビック扇町所長補佐)
- 05 | 松繁逸夫(NPO法人釜ヶ崎支援機構)
- 06 | 西村幸一(コラムニスト)
- 06 | 佐藤亘(もくらが一周するまで)
- 07 | 高嶺格(美術家)
- 07 | 上田假奈代(詩人)

聖なる夜に、西成の男たちによる紙芝居劇！
むすびとクリスマス

最近ではTVにもひっぱりだこ(?)のむすびとクリスマス会をします。むすびによる紙芝居を観ながら、聖なる夜を満喫しましょう！この日のためにつくった新作も上演します！

入場無料！たべものもちこみOK！ドリンクオーダーのみ！
だれでも歓迎！

12/11(日) 16:30 入場無料(要1ドリンクチケット)

お問い合わせ：
06-6636-1612(ココールーム)
cocoroom@kanayo-net.com

08 | 連載コラム

- 08 | 辻本恵美 浪速自転車コラム
- 08 | 飯島秀司 ライトハウスレポート第3部
- 09 | 加久裕子 たまには泣いてみる？
- 09 | 阿佐田亘 日常再編集 | もーれちゅ！マウス絵道場
- 10 | 劔樹人 CHIMES | today's
- 10 | 上田假奈代 ライブラリよりわたしの一冊
- 11 | 劔樹人 どうでもいいことある記念の瞬間

12 | スケジュール

泣いた赤おに

天井の上で
雨は 屋根をうちつけ
その上で 雲がくっしよりと灰色に垂れこめている

青鬼の玄関には 置き手紙が貼ってあり
青鬼が乗った雲は もうどこかへ行ってしまった

泣いた赤鬼は
約束を守りとおした青鬼と
再びあうことはないだろうと
涙が 雨につたって
冬のわたしたちの空で 降りつづける
そして 今日鬼のいない雲が 音もなく
空へ帰っていく

著者・浜田広介は、山形県出身の童話作家で、「日本のアンデルセン」とも呼ばれている。日本の児童文学の先駆的存在で、作家人生五〇余年の間に、約一〇〇〇編もの童話や童謡を世に送り出した。子どもの頃に大好きだった童話。

WORK IS EXPRESSION!!!! 仕事は表現なのだ！



K IYOTAKA AKAZAWA 新しい世の中・新しい仕事

赤澤 清孝(きょうとNPOセンター事務局次長)

私の仕事観は、学生時代に様々な活動に関わったことで育まれた。牛乳パックのリサイクル活動、アジアの留学生との平和学習のスタディツアーの企画、学生食堂でのメニューコンテスト等々、どれもお金になる活動ではなかったが、「こんなことできたらいいな」ということが形になったときの気持ちよさは何物にも代え難いものだった。

また、その当時、阪神・淡路大震災も起こった。多くの若者が被災地の復興支援に関わるなかで、自身が他者や社会に変化をもたらすことができることを学んだ。私は、その後も若い人たちが、自分が関心のあること、見過ごせないことに、何らか関わられるような仕組みをつくっていきたくと考え、有志で学生ボランティアセンターを設立した。

そんななかで自然と、仕事とは「誰かに与えられた役割を全うすること」だけでなく、「自分の思いや志を形にすること、表現すること」という感覚が身に付いた気がする。

現在、私は、ボランティア活動やNPOで活動したい人、している人をサポートするために、相談や情報提供、研修などを行うというちょっと変わった仕事をして対価を得ている。こんなことが仕事になるなんて、世の中ちょっと変わってきたと思う。

でもきっとそれは、多くの人がNPOというツールを使って、居心地のよい社会をつくっていきたく、自分の志を表現したいってことなんだろう。そして、そんななかから新しい仕事が生まれてくるに違いない。



赤澤 清孝
伊丹市生まれ。様々な市民活動を経て、2003年よりNPO法人きょうとNPOセンター事務局次長を務める。

A SUKA HASHIDUME 人とつながる表現をつくる

橋爪 明日香(OurPlanet-TV)

いてもたってもいられなくなった昨年4月のイラク日本人拘束事件。あれから1年4ヶ月「自分にできること」をココロとカラダで考え続けた結果、短編ドキュメンタリーという形で表現しました。そしてこの夏「日本列島1000人対話の旅プロジェクト」と題して、自作ビデオをひっさげ旅に出ました。ビデオが出来上がったその日に出発、北海道から沖縄まで自分でビデオを上映して回りました。

旅先の路上で、対話ノートやビデオカメラを広げ再生ボタンを押す。映像を見てくれた通りすがりの人と対話を広げました。路上ミュージシャンのビデオ版に挑戦です。公園の壁に、映像をカッコよく投影してみました。音楽とお酒も用意しました。楽しい空間となり、みんな集まってきました。どこでもストリート上映パーティーが出来るのがわかりました。私が作ったビデオは13分。ビデオは前座でよく、その後に対話を広げることで1~2時間の映画一本分となります。そんな参加型スタイルの上映会も始めました。

こんなチャレンジをしているうちに、仲間が増え、日本各地から出前上映のリクエストをもらえるようになりました。旅の1ヶ月で対話した人数は300人、目標の1000人に達成するまでこのプロジェクトを続けることにしました。人と共有できる新しい表現の形を、もっと実践していきたいです。

『旅するハッシー』
「アワプラTV」トーチプロジェクトに応募し「むすびプロジェクトのドキュメンタリーをつくる」が入賞した。ビデオカメラの持ち方を東京から教えにきてもらったときに「うちのスタッフがビデオを持って全国を行脚してるので、ココールームでぜひ」と言われ、詳細はよくわからなかったが直感的に、面白そうと思った。今年8月23日にココールームに現れたハッシーは、元気いっぱい、けれど旅する者の利便感と孤独をもっていた。(上田)



橋爪 明日香
青山学院大学4年、OurPlanet-TVメンバー。イラク拘束事件・今井紀明さんを半年間取材し、ドキュメンタリー「みんな、空でつながっている」を制作。(インターネット配信)中http://www.ourplanet-tv.org/

J UN NAKAMURA 生きることと表現

中村 純(詩人)

今年の4月から、母校の女子高校で、「未来デザイン講座」というワークショップの講師をやっている。OGである私が、これから将来の仕事を見つけた進路を考える女生徒とともに、生きることと仕事と社会を結びつけて考える手がかりを与えられたら、と思っている。

学校と家族という限定された日常を行き来する彼女たちにとって、自分が社会の中に生きていくという実感は薄かったが、夏休みに「考えること」を宿題にしたら、面白い反応が返ってきた。

「自分が社会をよくする方向で仕事をするとしたら何をやるか」という問いかけについて、ある生徒は、「私が社会に何か役に立つなんて考えたことがなかったのでもびっくりした!」。

かくいう私は、なぜ会社の仕事に忙殺されながらも彼女たちに会いに行くのだろうか。かつての自分へのプレゼント、そして彼女たちと一緒に未来を創っていくためである。私が高校生だったころ、自分が仕事を持つところか、私のような人間が生きていく場があるのだろうか、と不安で仕方なかった。私は、かつての自分に伝えているのだ。生きていてよかったな、と。人は出会いに導かれているような気がする。その関係性の中で、与えられた場で、自分を表現していくことが、今を作っている。

私は詩やエッセイを書いたりもする。それも、受け取ってくれるたくさんの「あなた」との出会いのためにしている仕事である。

『深い視線の人・中村純さん』

「詩と思想」という雑誌から女流詩人特集への寄稿依頼が届いて吃驚した。わたしのようなやり方は現代詩業界には認められていないという自覚があったからだ。わたしは寄稿を断りインタビューなら受ける、とお返事をした。その担当が中村さんだった。東京で2時間余お話をしながら、中村さんの聴く姿勢に思想を感じ取り、中村さんのインタビューはじめてしまった。詩と社会のありようを真摯に考える中村さんといつか一緒に仕事ができたいと強く思ったのだ。(上田)

中村 純

1970年東京生まれ。1992年より出版編集の仕事をしている。2004年、第一詩集『草の家』(土曜美術社出版販売)を刊行。

Y OSHIKATA MUGURUMA 今までにない未知のモノをつくる仕事

六車 義方(発明家)

私は乗り物の発明家です。発明家は、画家のようにキャンパスに未来の夢を描き、それを実際に具現化させるのが仕事です。未来志向の楽しい乗り物や面白い乗り物をキャンパスに一杯描き、鳥やトンボのように羽ばたき飛行の出来る人力飛行機や、イルカのように水上を走れる水上竹馬や、蛇のように地上を動き回れる、走る座布団を作ったりします。

今、力を入れている発明品が、車椅子自動車です。ガソリンエンジンで走る電動車椅子で時速20Km/hで走ります。(写真参照)車椅子に座ったままオートブレンダー気分です。

ところが、これを警察にもってゆき、使いたい旨申し出ると、「こんな危ないものをよぼよぼの爺さんが運転するなんてとんでもない。」と、無茶苦茶、怒られました。

もうひとつ、今作っているのはムカデ自転車でムカデのように車輪が100個もあって右でも左でも自由自在に動き回れるのです。これは車椅子の形をした高齢者用ペダル漕ぎ三輪車です。三輪車なので漕ぎぶれが無く車椅子形なので安楽に座れ、脚力でペダルを漕ぐで疲れません。

このムカデ自転車を発想したきっかけは次のようなものでした。私の老母が自転車に乗って近所のスーパーに買い物に行って帰り道、前から来た猛スピードの自動車を避けようとして道端の溝に車輪を突っ込み、自転車ごと倒れこみ骨折事故を起こしたことでした。暴走自動車も悪いのですが、倒れない高齢者向けの安全な自転車を発明できないかと悪戦苦闘したのち、ようやく作り上げたのが、足ペダルで漕ぐ車椅子でした。

福祉介護団体や行政に、評価し、モニターしてもらおうと、発明品を持って相談に行きました。しかしながら、ペダルを漕げる健康な高齢者は福祉や介護の対象ではないから、ペダル車椅子などという妙竹林な乗り物を支援するなんてとんでもないと、冷たく遇されてしまいました。お医者さんや大学の先生も私の作った試作品を見て、馬鹿にするばかりで、足の悪い人が車椅子に乗るのであって、足の健康な老人は車椅子なんか使わずに歩くべきだと冷たく言い放ちます。社会の壁は硬く容易にぶつ壊れません。

でも、このペダル車椅子に着目してくれた大阪藤井寺養護学校の先生や生徒さんたちは、日ごろ車椅子を使っている所為もあって、「こんないいものを世の中で使わないのはおかしい。」と、乗って楽しんでくれています。私の発明品を受け入れてくださる方もいるのです。

発明は、今までに無い未知のモノを創造する、技術的思想の創作で、六車義方の主張であり表現なのです。私の発明が、多くの人に受け入れられ、普及することを願っています。



六車 義方

発明家。

<http://www.eonet.ne.jp/~muguruma/>

H HIROSHI YAMANOH 仕事を『表現』にするのだ!

山納 洋(メビック扇町所長補佐)

僕はやらされ仕事が大嫌いです。会社に入った頃は「なんでこんな仕事しなきゃいけない!」とストレスばかり感じていました。が、ある日、「人がやってほしい仕事」を『自分がやりたい仕事』に変えてしまえばモチベーションが上がる、ということに気がつきました。で、毎年何となく続いていた社内バスツアーを大道芸人のショーや屋台、ウォークラリーなどを盛り込んだ手作りイベントに変えてしまったり、電話応対マナー向上運動にかこつけてキャンペーンビデオの撮影や編集に掛かりっきりになったり、そんな読み替えをしながら会社生活を送っていました。

その後文化施設やインキュベーション施設で働く好機をいただきましたが、基本原理は一緒です。言われた仕事を自分がやりたいように企画・提案し直して、それを認めてもらって自分の仕事にする、そんなサイクルを作り続けています。

10の仕事をしなさいと言われてときに5の仕事しかしないと怒られるのですが、オプションをくっつけて15ぐらいの仕事すると、余計にやった5の部分は自分の『表現』になります。その仕事認められれば、仕事が少し自分好みになります。この『表現』が他の人に真似できない?ことであれば、そういう仕事は今後自分のところに回ってくるようになります。こういうことを繰り返していると『仕事』そのものが自分の『表現』に変わっていきます。まあ、だまされたと思って一度試してみてください。

『今日も走る山納さん』

山納さんに知り合ったばかりのとき、大阪に引越してきたばかりで知り合いのいないわたしを半日かけてアートの現場のあちこちに案内してくださいました。5年前のことだ。寒い冬の日だった。地域のこと、場をつくること、仕事をつくり人生を生きることを考えながら、プロジェクトをたちあげ実践している人だからこそ、走りながらまわりに目を配ることができのさだろう。(上田)



山納 洋

メビック扇町所長補佐。大阪ガス(株)入社後、扇町ミュージアムスクエア勤務を経て2003年より現職。

O TSUO MATSUSHIGE 自己証明の証

松繁 逸夫(NPO法人釜ヶ崎支援機構)

今の私の仕事は、野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々を支援することを目的として設立された、NPO法人の事務局長ということになっています。1999年の設立当初は、普通の事務仕事をしている時間が長かったのですが、最近は何をしているのか、人しやるべのの仕事のようになっています。これまで、収入を伴う仕事としては、事務員や、ガソリンスタンドのサービスマン、本のセールス、業界紙の記者や編集、露天の飲食店、日雇いの現場労働などをしてきました。そのかわり、ボランティアというのか、活動というのかをしてきました。印刷したり、ピラ配ったり、会議に出たり、結構、収入を伴わない仕事というの忙しいものです。しかし、今の生活を振り返ってみると、どうも収入を伴わない仕事というのはしていないように思えます。釜ヶ崎支援機構の事務局長から離れた仕事が、今の私にはない。フト気が付いて、上田さんの詩の朗読会にでも混ぜてもらおうか、などと考えたりしています。

では、今の仕事で「表現している」ことはないかということ、そうもいえないように思います。

なぜなら、人は、生存そのものが自己表現の連続であると思うからです。収入を伴う仕事であれ、伴わない仕事であれ、自分がすることはすべて自己表現と切り離しておこなうことはできません。赤ん坊は泣くのが仕事であるといひます。

そうでありながら、時として、「流されていく」「表現させられている」という思いにとられる事もあります。仕事が嫌になる時です。収入を伴う仕事である場合はすぐ転職しました。収入を伴わない仕事でも、やはり人と人との関係の中でおこなうことですから、同じ意思を抱くことがおきますが、この場合は、自分の根っこに関わることでですから、すぐ「やめた」とはなりません。闘います。

仕事の中の部分的、一時的な場面で、「表現している」と感じる事を書け、という要請であったのですが、どうも、私のような独善的で、独裁者のな性格の人間には無理な注文であったようです。すべてが自己表現であり、疎外感を感じれば闘うというのですから、よくよく考えれば、まわりの人はいい迷惑でしょうね。それでも排除されないでいるのは、人がそれぞれ程度の差こそあれ、唯一性を信じ、独裁者であるからではないでしょうか。だから、自ずと調整する。

「生存そのものが自己表現の連続である」という当然なことを忘れた人が、仕事に、場面に、表現の影を求める。人と人との関係性に、自己証明の過大な証を求める。

「表現」は有りて無きもの選らうもの。「人」も有りて無きもの選らうもの。されど自己。



松繁 逸夫

1950年生まれ。1971年から釜ヶ崎と付き合い、現在に至る。最長職は日雇(鉄筋工)20年。

K OUICHI NISHIMURA マニュアルで仕事はできない

西村 幸一(コラムニスト)

「仕事」を考える時、不思議な感覚にとらわれながらふと思う事がある。「障害がなければ、自分は何の仕事をしていただけるか」と。例えば、「パイロット」、「ラガーマン」、「電車の運転士」、「コンビニの店員」等々。夢物語みたいな話だが、考えれば考える程おかしくて思い出し笑いを禁じえなくなる。身近な存在である「電車の運転士」に対しては「変な運転はしないか」とか、「コンビニの店員」に対しては「愛想の悪い子はいないか」などと余計なお世話ながら観察している自分がいたりして…。

ところでマニュアルって必要なのだろうか。しっかりとしたマニュアルがあれば僕の「余計なお世話」はなくなるのかもしれない。だけど何か引っかかってくる。まず、マニュアルをつくるのは会社の重役、それに従うのは若手社員というように、つくる人とつかう人が違っているのが気にかかる。

マニュアルという単なる手引書が、解雇にもつながりかねない契約書のような重みを感じさせるのもヘビーだ。そして何よりも、「仕事」を「表現する」という行為から遠ざける斥力にげんりさせられてしまう。

障害を持った人の多くは作業所等で働いた経験があるだろう。僕自身もかつては某作業所でひたすら押しピンを計量していた。

そうした作業自体を卑下するつもりはないが、「やるよりやらされている方がラク」と居直ったふうな仲間たちに嫌気がさし、僕は作業所を辞めてしまった。

当時、いわゆるニートだった僕はどういうわけか巨大な樹木を見て回っていた。そして、これまたどういふわけかある機関誌上で、その「巨木」たちとの出会いを綴ったコラムを連載するはこびになり、僕はようやく「仕事」に出会えた気になった。その「仕事」は今もワクワクした思いで続けさせてもらっている。原稿料は頂いていないが、「仕事」なので毎回お引き受けしている。

これからも「仕事」を続けながら、僕が生まれてきたナゾを不思議な感覚をともないながら探っていきたくて思っている。



西村 幸一
ほうきぼプロジェクトで頑張る31歳だが、気分はいつも16歳。先月とうとう一人暮らし宣言も飛び出した(2年後の)。できるのか?

W ATARU SATO どM

佐藤 亘(もぐらが一周するまで)

今も昔もきつと。ひとは生活をしていく以上、何かを表現していかざるを得ない。と同時に、やっぱり何らかの仕事せざるには、ひとは生活をしていけない。だとすると、表現が仕事に、また仕事表現に、こう、包まれていく様な。そんな風情が尤もな理想郷でありまして、そして僕は社会人生活2度目の冬を迎えようとしています。

ところで僕はSかMかと言うと、完全にMだ。そりゃあもう、いじるよりもいじられる方が好きだし、何よりも、自らの醜が美となるまでの限界状況の圧縮の過程が気持ちいい。あ、痛いのは駄目です。すいません。という訳で、ふと振り返ってみると、自らの生活でこの悪癖が露出している、あるいは露出する様持っている、というシーンが実に多いこと。家族でびしり。幼馴染でびしり。初対面の人でびしり。そして当然ながら、職場でもびしり。

百貨店の仕事とは、読んで字の如く、をするまでもない。要はどれだけ多くのひとを満足させられるかを最大の名目とするものであり、び、そこに従事する者達の関心は、常に最大公約数へと向けられてなければならない。びし。しかしながら、これは決して命令でもなければ義務でもない。び、びしり。そもそも、ある個人が特定の企業に与する、それは言うなれば、その企業本来の持つ意思を自らの意思として持ち合わせていなければ、び、びしりされたい。

そう、僕にとっての仕事と表現が結び付くポイントとはまさにここで、すなわちは、最大公約数でない自らの醜=エゴを多くのひとに提供していく、その過程における抜き差しならない縄縛り、もとい綱渡りなのです。

『佐藤さんの仕事と表現』
デパート勤務とミュージシャン。二足のワラジを履く佐藤氏。最近、彼はこのワラジの距離を縮めているようだ。デパートでの企画にアートを導入したり、その過程で出会った人々と今度はアーティストとして交流したり。人生のうち、もっとも多くの時間を費やす行為「仕事」に対して、彼の座標は日々更新してゆく。(阿佐田)



佐藤 亘
百貨店総合職に従事と同時に一人ミニマル音楽「もぐらが一周するまで」の人。
・演奏予定 11月26日(土) @ 京都大学西館講堂内
w) RO.VO, RECK+中村達也 +大友良英スペシャルユニット、GOMA、ドラひでお 他
12月2日(金) @shin-bi
w) Itoken, fan club orchestra japan 他
12月29日(木) @新世界bridge
w) 藤田正明トリオ、SABBIT、tow, clones-index 他

T ADASU TAKAMINE 1 2 3 4 5 6 7 8 ...

高嶺 格(美術家)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

原稿を書くにあたって、依頼者から与えられた「お題」をまず暴露し、自分は受け身であるのだ、ということを読者に向かって表明する。それはあくまで「仕事」であって、本業の片手間でやっていることなのだよ、それをわかってね、と最初に弁明する。そのこと自体が、この原稿のお題「仕事表現なのだ、というテーマについて600字で書いてくれ」に対する端的な答であるように思う。

あそれでね、僕は継続的な思考ができる人間ではないということ。これは前提として断っておかなくちゃいけないです。

誰もがこの世界をなんとかしなくちゃいけないと思ってる、それに対して毎日コロコロ態度が変わるんです。つまり自分の仕事の対象が毎日違う、毎日という24時間単位なのですが、実はそれが一瞬一瞬で変わることに対して、自分を責めることがないということ。自分を責めることはないが、もし自分がその「無責任」を責められることがあったとしたら、そのときはちゃんと責任をとるように振る舞う。僕は、目標それ自体が瞬間でしかないことについて、それを無責任とは呼べないのだ、というスタンスで仕事をしているし、そういう風に仕事をするのが、自分と他人の間に「交換」が発生することだと思っているから。

『高嶺さんの仕事と表現』
「仕事」とは「社会(他人)に対してはたらきかける、その在り方」のことであり、それが広い意味での「表現」になりえるのではないかと、思うようになった。さらに言うと、主体である働き人の経験位置によってはたらきかける対象が変化し続けるのは当然で、客体に対する姿勢に責任が持てれば、良い仕事が続けることができるのではないかとと思うのだ。(阿佐田)



高嶺 格
美術作家。作品はパフォーマンスやビデオ、立体作品等、多岐に渡る。37歳、子供一人。

K ANAYO UEDA 表現とは循環。放射状の、行ったり来たり、スパイラルの。

上田 假奈代(詩人)

毎日どんな言葉をよく使っているか考えてみると「表現」という言葉の頻度が高い。生きることは表現だと思っ

ていて、すべての人は表現しあって生きているのだと思うからだ。それを踏まえた上で「表現」を社会的に考察し、その継続性や責任を考えた活動している人をアーティストと呼んでいる。アーティストは表現を仕事としている人であること以上の言及をここではしないとして、すべての人にとって生きることも仕事も表現なのだ、と言いきってみる。もちろんこれは表現側からの一方通行をさせているわけでは決してない。

表現への反応が表現を生むという双方向の表現である。広い視野でみれば、経験を積み重ねた人から、未経験の人へ循環していく智慧や技術、ハツとする視点や励まし。そして、その流れのなかの単体は放射状に光り、循環している。その小粒の光はピカッとした瞬きだったり拡散しながらも大きな流れにうねりを加え、流れにダイナミズムを与えている。単体であるわたしは、この流れを速くの視点からみることもあれば、近づいて自身の内部側でみることもある。一定してない。近づいてみると、小幅で行ったり来たり、渦巻いていたりする。渦巻きすぎて何が何かわからないときもある。そんなときには大きな視点にかえり、上空の風など感じて、ふっと肩の力が抜けてから戻る。行ったり来たりをくりかえし、人と関わり、仕事をすすめていく。

わたしの仕事は言ってしまう「表現活動」なのだが、舞台や印刷物の上で発表する表現よりも、それを発表できるようにするための仕事表現もとても重要なのだ。世間に知られてほしいと思う人の発表機会をつくるお手伝いもする。事例が殆どないので簡単にはすまない。けれどあきらめないのが、仕事。

さまざまな人と関わり、瞬間的に何かをキャッチする。脳はもの凄スピードでなにかを考えている。それはなかなか言葉にならない。なんとかして表現しようするとき、脳は矢面に立ち、発せられた言葉によって自分を発見していく。聞き手はそれをうけて自身も何かを発見する。よい聞き手こそが最も必要な表現者であり、耳を澄ませることが詩人の仕事である。耳を、生きていることの真ん中にて、行ったり来たりする。



上田 假奈代
1969年奈良県生まれ。3歳より詩作、17歳から朗読をはじめる。各種イベント企画制作、ワークショップを手がける。cocoroom・特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋代表、APM代表

浪速自転車コラム

辻本恵美

「なにじテトラポット、いかがですかー。」

今回は、浪速自転車は一体どの様な集団なのか？ほんまに活動してんの？という皆様の声にお答えして、10月某日とある老舗料亭にて行われた「作戦会議」の模様をお伝えしま。

金：量、座敷、いやー、竜馬や。池田屋。革命前夜！！

辻：びしゃ。(金友を、たたき切る。)

しばらくして、リー君登場。

リ：うお。座敷で会議って。なんか、池田屋みたいやなー。

金・辻：びしゃ。

浪速自転車の思考回路：座敷・会議・竜馬・池田屋・革命→カッコエエ！（あほですなー）

さて、そうこうしているうちに太一君登場。いつもお世話になっている谷口自転車の運搬車を、友達のYっぺに紹介・商談成立させてきた様子。

Yっぺ「コレむっちゃええわー。ひとごぎでよう進むし。安定してるし。」身長155センチくらいのカワイイ小柄な女性のYっぺに、ごつい運搬車がよく似合ってます。カッコエエ！（運搬車/実用車は安定性を重視したつくりになっていて、ごつい割には足つき性も良く、女性でも安心して乗れるのです。）

4人そろった所で、今回の議題。1. 11/19までに一台目の浪速自転車を作るにはどうしたら委員会。2. 最新版「事業計画」を作るために浪速自転車の現状確認をしよう！について喧々諤々（けんけんがくがく）、「そもそもライダーの言うことがブレてるのやないか。」「そんなことない、お金はらってもらった人に対する誠意が…。」（羽賀ケンジをたとえに出すも撃沈）「人件費とか考え出すとモノつくりってほんまに儲からんわー」。

で、浪速自転車グッズを作るとしたらどんなんがエエ？「手ぬぐいは絶対やる。なにじてぬぐい」「そのネーミング、ええな。」「ステッカーは欲しいよなあ。」「なにじてーイヤッ、なにじテント、…」「なにじテトラポット！」「それ、ええなー。テトラポット屋やるや。」「ちゅーか、いらんやる。」と、例のごとくどんどん話がそれていき、名物バラ井をいたたい解散と相成りました。

☆！help！☆ 現在、自転車を探しています！ナショナルのレギュラーという車種の実用車を格安で譲っていただけませんか？他の車種でもかまいません。実用車を見かけたら浪速自転車まで！連絡おまちしております。
naniwa-jitensya@hotmail.co.jp

ライトハウスレポート第3部

飯島秀司

「The Lighthouse tapes vol.5
～地面に折姫と彦星がある(後編)～」

柴田さんの不在と時を同じくして、ワークショップは低調になっていた。終了していく参加者。2年間つづけてきたワークショップの場が、だんだんと意義を失いつつあった。柴田さんの存在は大きかったのだ。楯入れとして、生活訓練部からの参加が始まったが、そこに強い動機は存在しなくなっていた。「あなたは視覚障害者を利用しているのではないかと」と面と向かって言われたこともある(その正否を計るには、時間が必要だろう)。私はワークショップの前になるととても憂鬱になり、ライトハウスに行くのが嫌になった。そんな中、井野さんから電話をもらう。「(闘病中)柴田さんに音の手紙を送ってあげたいので、協力してほしい」と。ワークショップを録音する作業をずつつづけていた私は了解した。録音の日、参加者は生活訓練部からの女性がふたりとAさんSさんと井野さん。私はワークショップの合間、自分の生活が今とでもだらしなくなっていて、なんとか立て直したいのだと、面白可笑しく語った。ワークショップの形式がなんとも息苦しく感じられ、何か新しいことをやりたいと思ったが、その時の私は逸脱するだけの方法論もエネルギーも持ち合わせていなかった。私は自分のつくったメソッドにがんじがらめだったのかもしれない。時間の最後に、柴田さんへの音の手紙の録音に協力してほしい旨をみんなに伝えた。呼吸を整え、ギターでの即興演奏が始まると、声のハーモニも立ちあがってくる。柴田さんの代役として朗読を担当するのは井野さん。1さんに宛てた私信のような詩が、やさしく、しっかりと発語される。これはさんに宛てた手紙ではなく柴田さんに宛てた手紙だった。朗読が終わっても、ハーモニーは途切れることなく、やがて「若者たち」の合唱に変わっていった。

録音されたCD-ROMは井野さんを通じて柴田さんのもとへ届けられた。病状が思わしくなく、連絡もままならない状況の中で、柴田さんはそのCD-ROMを何度も聴いてくれたそう。しばらくして嬉しい便り。柴田さんは随分元気になり、ライトハウスに訪問されたことを聞いた。私はライトハウスでつづけてきたワークショップの新たな可能性を求めて歩跡projectを立ちあげていた。また柴田さんに会える日が来たらいいな、なんて呑気に考えていた。しばらくしてメールが届く。私にとっては突然の訃報だった。後日井野さんは私に語ってくれた。どんなに病状が進んでも、決して弱音を吐かず、最後までがんばり通した柴田さんの死顔は、貴い仏様のようなだった。井野さんの涙で曇った声聞きながら、私は、ライトハウスでのワークショップをこのまま終わらせるのではなく、何らか形を変えてでもつづけていく方法はないか、と自分に問うていた。柴田さんの面影が見ていた。誰のためでもなく、ただ、この細い糸を繋いでいく。

※「The Lighthouse Tapes」シリーズ終了。
次回から、ライトハウスレポート最終章「対話の午後」をお送りします。

お詫び
前々号のコラム上で不適切な表現があったことをお詫びします。
柴田さんは、社会経験、生活経験から起こる、「声の小さい」状況を持っている利用者さんでした。

たまには泣いてみる？

加久裕子

自分の事なのに、何をしたいのかどこへ行きたいのか解らなくなる時がある。未だに自分の事が解らなくなる時がある。それなのにいちよまえに失敗したくないと思う。恥をかきたくない。涙を見せたくない。弱い自分を隠す。本当は強くもないくせに……。

自分の稼いだお金で生活したくて働いた。自分の城が欲しくて家賃を払う。実家にお金を送りたくてもうひとつ仕事を始める。25年のわずかな経験で土台を作り、その上にそれらをのせてバランスを保とうとする毎日。天気が変わるようにいつも笑顔ばかりじゃられない。「泣き部屋」なんてものがあればいいのに……。人前で泣けない大人用に。

泣ける人がうらやましい。目の前をクリアーにするためには涙は必要なかもしれない。

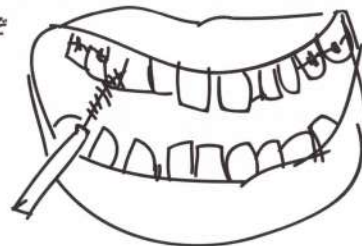
十代の頃、悩んでいる私に自信を持つということを教えてくれた言葉があった。「自信を持つということは自分を信じるということ」自分をもっと信じてあげることができたら私はもっと私を好きになれる。そして自分に聞く。「何しようか？どこ行こうか？」「たまには泣いてみる？」自分とうまく付き合っていくしかないね。

今年も名古屋に寒い冬がやってくるよ。がんばろっと。

もーれちゅ!マウス絵道場

絵：のぞ

文：剣



画伯に執筆のオファーをすっかり忘れており、慌てて頼んだら「もはやこれまで」のコメントとともにこの絵が出来上がって来たのでした。画伯は最近、歯医者に通っており、暇があれば歯間ブラシを使っているらしい。歯ブラシでは届かなかったところから10年前の貝柱とかが出て来たら、と、ロマンを馳せているに違いない(つ)

日常再編集

阿佐田亘(a.k.a.大和川レコード)

「えらべる希望」

10月中頃のこと。12月に発表する教育をテーマにした作品制作のため、アーティストの高嶺格さんと大阪市内のフリースクール「フォロ」を見学。まずスタッフの方に、4つほどある部屋を順々に紹介していただくことに。「スクール」という名前が付いているものの、全く既存の学校とは違う体裁。ここではいわゆる教室は存在せず、勉強机や椅子が整然と並べられているわけでもない。「生徒と先生」のような関係もなく、そこに通う子どもたちは自由にスタフルームにも出入りでき、自分のやりたいことをやりたい時間帯に自主的に進んでいるといった感じだ。もっとも驚いたのは(想像はしていたのだが)教科的な時間割がほぼ皆無なこと。これは自分の既存の教育感を大きく覆すものであった。

「ここでは子どもたちの自主性に基づいて彼らがやりたいことをまず聞き、スタッフも含めみんな意見を出し合い、どうしたらそれが実現できるかを考える」とは代表の花井さんの弁。「教育」ということばの使い方にも気を払っているようだ。

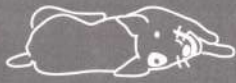
施設の説明後、過去に不登校になりフリースクールに通った経験を持つ人々のエッセイ集を拝読。この本がなかなか面白い。いままでも学校に行かない子どもたちを一括りにして「不登校児」と認識していた思考が解体してゆく。まず、学校に行かなくなった理由は、個々人で全く異なるものであること。単にクラスメイトに苛められたり、先生に虐げられたりといった受動的な理由ばかりでなく、「学校」という一つの価値に対するオルタナティブな生き方として不登校を選んでいる(この言い方が学生当時のエッセイ著者達の考え方をうまく言い表せているかは自信がないが)こともあるのだということが理解できた。これは自分が仕事で取り組んでいるホームレス問題などにもいえることで、全てのマイノリティー(社会に生きる大多数が指示する価値観に対しての)が、そのマイノリティーな属性の名のもとに個々のパーソナリティーが無視されグルーピングされてしまうことに対して、もっと注意深くならなくてはならないと改めて気づく。「教育」による価値の相対化以前に、「教育」そのものが相対化されることで、もっとオルタナティブなモノサシが世の中に生まれるのかもしれない。

大和川レコード

'79年1月1日大阪生まれ。日常行為と表現の境界、社会とアートの繋ぎ目に触れつつ、パフォーマンス、インスタレーション、映像、音声メディア、地域プロジェクトからNPO運営まで、多様なアプロ

チで作品制作し続ける。
http://www.geocities.jp/endeavor0203/





P YOUR EARS booking exhibition CHIMES

劔樹人

■05/10/12(水)~10/27(木)

「アストラルキャンドルの
はじめまして楽しそうかも展」Let's play!

「生やさないと、生やさないと」と、阿佐田さんが本気で悩んでいたのが、大学の頃から忠告し続けていた薄毛にやっと気付いてくれたのかと思ったら、展示作品としてココルームに木が生えるという事だった。搬入の段階からただごとではなく、普段は隠されているものものしいエレベーターで木を上げる。よくSF映画に出て来ては、化け物を挟んだりするのがお約束という趣のエレベーターで、挟まったらケニーみたいになるのかなあなんて考えていたら、このエレベーターは2階が終着駅。2階より上は結局エスカレーターで手搬なのであった。フェスティバルゲートが、設計からイイ湯加減だったことを改めて実感できる出来事！最高！

作家は大阪芸大の3回生5人。楽しそうに作業する姿に大学祭前夜を思い出し、それが毎日続いているこちらは俄然仕事のやる気をなくす。繊細な作品が多く、展示期間中はイベント開催の度、取扱いに神経を使う。猫がやってきては作品に登り付くのでびっくりする。

色々あったが、展示が終わり、木のなくなったココルームはなんとなく寂しくなった。

today's 11/365

自分の都合だけで孫にあいに行くのはあかん。

採取日時：2005年10月17日(月) 12:55
採取場所：谷町4丁目

孫が可愛くてたまらんらしいが、自制して年に数回だけあいに行くのだと井上さんは言った。大阪府庁の警備のお仕事をされている。府議会傍聴に通っているわたしに「ごくらうさん」と声をかけてくれたのが縁だ。たしかに人は自分の都合だけしか考えませんものね。都合ではなく、あいたい気持ちはどう制御したらよいのでしょうか。

ライブラリよりわたしの一冊

上田假奈代

もしもウサギに
コーチがいたら

伊藤守 著
大和書房刊 1200円

If I were a rabbit's coach...
もしもウサギに
コーチがいたら



自分のことと
他人のことが大事やねんと
考えるあなたへ：★★★★

正直に告白すると「コーチング」というのが苦手だ。やったことがないから食わず嫌いなのかかもしれない、という思いもあり「コーチングをやってる」と聞くと「積極的に人生を生きてらっしゃるんですね」と、とよく前向きに受け止め「具体的にどんなことをなさって(やろうとして)いるんですか?」と話をにつける。聞きながら、自分で考えて行動して、人と話していくなかで学ぶことを、人と対話をしてもらうためにお金を払うのって、どうなんやろう、と思ってしまうのだ。自分をふりかえると、さまざまな席や場面で先輩や友達に話を聞いて育ってもらった。それは今も同じだし、年下の人から話を聞くことも増えた。その循環こそが人間の営みなのではないかと思っている。

コーチングとは何だろう。本人の「やる気」と「能力」をひきだす人材育成の手法で、「対話」を基本とした一対一の関係をビジネスとしているのかな、と思うが、間違えているかもしれない。

さて、本書はコーチング苦手のわたしでも、ハツとして自省するほど人との対話の基本が書かれている。●反省させない●アドバイスはしない●レッテルをはらない●開かれた質問をする●口を挟まず結論を先取りせず勝手な解釈をせずに聞く●一度に一つ以上を教えない●挫折感・失望感のなかに長眉させない●理屈をおしつけない●関心をもって放っておく●がんばりすぎない●感受性を疲弊させない●視点をいくつも持つ●沈黙をわかちあう●人間は一人ではがんばれない●ある種の人は自分に才能がないことを察知すると、やがて教える側にまわりたがる これらの項目を書き出しながら、自分を顧みつつ、でもビジネスではなく人として生きるうえで、自分を見つめ、すべての他者へ対話を重ねていくことがやっぱり何より大切だと思った。

*ココルームライブラリに「就労支援本棚」ができました。仕事と自分のことをじっくり考えたり、社会人基本マナーを学んだり、いろいろ役立つ本棚です。

どうでもいいことある記念の瞬間

恋愛研究会。の第一回! どうでもいいことある記念の瞬間!

何一つ頑張った事のない恋愛研究会。がちよっと頑張って、梅田のレインドッグスで企画を行ったのです。

Live:
恋愛研究会。/ L.L.cool.J太郎 (a.k.a. 杉作J太郎) / ロマンポルシェ。 / ウルトラファッカーズ / オシリペンベンス / ミドリ / HOSOME / 中年ジャンプ
Guest:
佐伯誠之助 / いしくんぼ / 阿佐田亘 (大和川レコード) / 大王 (イデストロイド) and more!

これだけの豪華なメンツを揃えて、したことといえば出演者総出演のガチンコお笑いマンガ道場や、オモロ顔スライドショーなど、どうでもいい企画ばかり! 朝方、「結局、どうでもよかったなあ」とつぶやきながら変な疲れと妙な満足感に包まれながら帰るお客さんたちが、この企画の成功を物語っていたのでした。



(写真左上) ライブは西野さんの「天城越え」熱唱によりげんなりした気分が幕を開けた! (右上) 会場外には味皇料理会所属・タカーキーによる背徳のイトウフード。
(左) 無駄に多いオリジナルグッズに身を包むメンバー。買え!!

恋愛研究会。

フジロック出演歌手から特殊芸人、ホイチョイ直撃世代サラリーマンまでが一同に会す「トス黒いドブの中に咲く一輪の蓮の花」こと世界初ストロングスタイルスカムバンド。即興演奏に合わせてヤンキー・オリジナルヒーロー・アイドルの似顔絵などを描くライブペインティングや、ドッキリビデオ・全裸借金返済ビデオの制作など、アート/映像作品に対するアプローチも盛んに行っており、「たけしを失ったたけし軍団」と評されるライブがごく一部で話題に。

劔樹人 (恋愛研究会。)

これも生きる仕事シリーズ

いまや全く音楽を聴かなくなり、ロック嫌いを自他共に認める上田さんが代表を務めるココルームにいなながら、私はロックバンドをやっている。なんとなく申し訳ないが、仕方がない。そんなロックバンド、ミドリは、初めて見た時に「この人たちは、うまくやったら売れるかもなあ」と無責任に思ったのだが、如何せんそこに自分が誘われてしまったのではない、順調だったサラリーマン生活を投げ出し、これも運命と参加することにした。あれからはや半年。着実に知名度を上げながらミドリは無事ファーストアルバムを発表することになりました。落ち込むこともあるけれど、私は元気です(4kgやせた体で深夜掃除中のほうきにまたがりながら)。

11/20(日) 東京外国語大学学園祭
共演: 水中、それは吉しい/悲鳴/Panic Smile/その他
11/30(水) 難波 ベアーズ 共演: Asid Eater/巨人ゆえにデカイ
12/17(土) 難波 ベアーズ「ミドリ『ファースト』発売記念!!」
共演: 佐伯誠之助/巨人ゆえにデカイ
12/31(土) 梅田 シャングリラ 共演: 赤犬/ZUINOSIN/その他
1/13(金) 京都西院ウーララ 共演: アマゾンサリバ/Americo
1/15(日) 渋谷 O'nest 「円盤ジャンボリー」
1/16(月) 下北沢 屋根裏「ミドリ『ファースト』発売記念!!」
1/17(火) 高円寺 UFO CLUB
共演: ワッツーシゾンビ/水中、それは吉しい
1/18(水) 池袋 アダム
1/20(金) 米子 水玉の部屋
1/21(土) 山口 印度洋
1/22(日) 福岡 VooDooLounge

「バンコちゃんわバンクじゃボケカス!!!」
恋した彼女は天使か、悪魔か...?
あばずれた欲望から生まれたのは、
最高のラブソングだった!!



収録曲:
1. わっしょい。
2. お猿
3. ああ嫌
4. A・N・A
5. ロマンティック夏モード
6. POP

全国のタワーレコード他CDショップで予約、お取り扱いたしております。

ミドリ「ファースト」
ギョーンカセットより
2005年11月25日発売!!
CD95-31

税込み価格¥1,680 (税抜価格¥1,600)

"do art yourself~すべての人は表現者~"

cocoroomとは、「こえ」と「ことば」と「こころ」をキーワードに、表現と社会との関わりをさぐり、発表機会に恵まれないアーティストに機会を提供する。またアートマネージャーとともに学び、支援育成し、その過程や成果を市民交流の場へつないでいく。それらの広報活動や流通事業を通じ、継続性をもってアートを社会へ還元する仕組みと人材育成を目的とするNPO法人。
 主な活動：芸術を「生きる術」ととらえ、「表現」を通じた自立・自律を育む事業を行ない、社会や地域の問題解決の力となるよう取り組んでいる。フェスティバルゲートの新世界アーツパーク内で市民交流窓口となるココルームを年中無休で運営。積極的にアウトリーチ活動を行ない、それらの情報を発信したり、意見交換をする場をココルームに持つ。「表現」を軸に、ニート、ホームレス、障害者など社会的な問題にも取り組んでいる。

■こえと旅(dialog)

11/26(土) 15:30~17:00

@大阪府立現代美術センター展示室A

出演：藤本由紀夫 / 渡辺昭二 / 大和川レコード

■あの窓にさようなら(performance)

11/27(日) 15:00~16:30 @cocoroom

出演：YukoNexus6×大和川レコード

■教育スモウキング ~土儀1~(performance)

12/02(金) 19:00~20:00

@大阪府立現代美術センター展示室A

出演：高嶺格×大和川レコード×上田假奈代

■教育スモウキング ~場外編~(dialog)

12/02(金) 20:00~21:00

@大阪府立現代美術センター展示室A

出演：同上

■教育スモウキング ~土儀2~(performance)

12/10(土) 19:00~20:00 @cocoroom

出演：同上

■あいたい人よ(performance)

12/09(金) 17:00~18:00

@大阪府立現代美術センター展示室A

出演：エメスズキ×むすび×上田假奈代

■あいたい人よ(dialog)

12/09(金) 18:00~19:30

@大阪府立現代美術センター展示室A

出演：同上

むすび：西成地区に住むホームレスを経た生活保護受給者による紙芝居集団。

■生まれておいで(performance)

12/11(日) 15:00~16:30

@cocoroom

出演：エメスズキ×上田假奈代

■関係性と身体、ことば(dialog)

12/17(土) 14:00~15:30

@大阪府立現代美術センター展示室A

出演：砂連尾理 / 寺田美佐子 / 上田假奈代

■視覚障害者と晴眼者によるアート参加プログラム

読歩project特別編 ~線のからだ、そしてことば~(dialog)

12/3(土) 11:45~13:30

@大阪府立現代美術センター 展示室A及び展示室B

※11:45分に大阪市営地下鉄谷町4丁目駅北改札集合

※要予約(定員:20名 予約先:cocoroom@kanayo-net.com)

出演：ミュージアム・アクセス・ビュー / 光島貴之 / 飯島秀司

ゲスト：北村成美

■読歩project

線のからだ、意志のことば(exhibition)

11/25(金)~12/17(土) 12:00-21:00 (土曜日は17:00迄)

@大阪府立現代美術センター 展示室A

展示作家：光島貴之×上田假奈代



(光島貴之 作 連作「repeat」より)

上記企画全て入場無料!!

主催：大阪府立現代美術センター
 企画・運営：大阪アートNPOコンソーシアム
 コーディネート：特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

大阪アートNPOコンソーシアム：

NPO法人大阪アーツポリア / 應仙院寺町倶楽部
 特定非営利活動法人キャズ (CAS)
 NPO法人こえとことばとこころの部屋 (cocoroom)
 NPO法人 DANCE BOX / NPO法人Beyond Innocence
 NPO法人記録と表現とメディアのための組織 (remo)
 NPO法人地域文化に関する情報とプロジェクト (recip)



カレイドココルームコンテンツの
 イメージキャラクターまんちゃん

Q. まんちゃん、ってどんな娘???
 A. 知りません。

※就労支援カフェココルーム：本事業は大阪市がNPO法人こえとことばとこころの部屋に委託して実施しています。

そもそも「生きるって、社会との関係性ちゃうん」「仕事から自分を見つけていけるんちゃうん」「仕事って表現なんじゃないの」ということばからはじまり、文化芸術に携わるNPOとしてこの3年間「表現と仕事と社会」をテーマに取り組みつけてきました。

就労支援カフェココルームとは？

- インターネットジョブカフェに
 カフェスペースに4台のPCを設置しました。
- 就労支援本棚
 就労研究者や起業家に相談を求め、おすすめの本を揃えました。
- ぼえ犬通信はしばらく、就労支援特集
 いろんな人から「働くことば」をいただきます。
- ホームレス問題
 野宿生活をしながら、表現活動をしている方々を支援しています。
- お仕事支援にまつわるイベント
 ココルームを会場にして就労支援カフェを行います。

ココルームスタッフ・土田さんに聞く

アートマネージャーへの道

土田恵好(cocoroomカフェスタッフ暦10ヶ月)

聞き手：飯島

飯島(I) 土田さん久しぶりですね。

土田(T) 神戸アートビレッジセンターでの展覧会「神戸アートアニュアル/眺めるに触れる」のインターンスタッフのとりまとめをしました。

I 土田さんがいなくて、カフェの手が足りなくて大変困りましたよ。

T はは。すいません。

I やってみてどうでしたか。

T 経験が自分の中で、まだ整理できていないんですけど、得たことは大きかったように思います。アートについてというよりも、マネジメントについて学んだ気がしますし、興味の対象もアートからマネジメントにシフトしていきました。

I マネジメントって、つらいでしょ。

T 孤独感を感じた時もありましたが、9人のインターンスタッフが一とちもこぼれることなく、展覧会開催にこぎつけたのがなにより嬉しいですね。

スタッフに仕事を分担するのが主な仕事でしたが、情報と意識を共有していくのに、こんなに手間暇がかかるのかと、吃驚しました。つつい自分がやっちゃった方が早いんじゃないか、とか考えちゃうんですが、それじゃひとりで抱え込むだけです。インターンスタッフという立場でしたが、途中で「あ〜、こりゃ仕事してるわ」と。もう必死でした。

I 「得たものは大きい」とのことですが、その「得たもの」は？

T 今回経験したスキルはアートマネジメントに限らず、他の仕事や場面でも生かせるんじゃないかな、と。展覧会の準備期間の途中くらいには、アートに対する想いよりも、どうやって今の仕事をやり遂げられるか、ということに集中していました。失敗も含め、勉強の毎日。まわりの人達に助けられましたね。そして、今は、この経験をどうやって次に繋げていくか、考え中なんです。



ココルームではインターンスタッフを募集しています。

興味のある方はcocoroom@kanayo-net.comまで。

就労支援カフェココルーム ぼえ茶会 生きる仕事シリーズ

19:00 入場無料(要1dチケット) 聞き手:上田假奈代

「仕事」とは何だろう。その意欲は一体どこから生まれるのだろう。さまざまな職業の方をゲストにお招きし、その人が選んだ仕事にまつわるお話をお聞きします

12/20(火) コミュニケーション域をひろげる身体表現の仕事
 ゲスト：エメスズキ(ダンサー・振付家)

1/12(水) 実践する生き方

ゲスト：いわはしゆり(表現教育実践家)

就労支援カフェココルーム

ジョブジョブパブパブ しごと作戦会議室

19:00 入場無料(要1dチケット) 聞き手:金友祐人

サラリーマン、大工さん、お医者さん、社長さん、いろんな職業あるけれど、自分にあう仕事って何だろな

「働いて何やるの？」

人が生活していくための大切な表現!

働いてるときに大切にしていること、知らんまにやってもーてること、みんなのはなし聞いてみよ。なんか発見あるかもしれん。

ジョブジョブパブパブみんなであえよう働くこと。

集え!お悩みスト

11/22(火) ゲスト：香山哲伸(行政書士)

12/13(火) ゲスト：六車義方(発明家)

1/30(月) ゲスト：大城龍一郎

(得正グループ上等カレー本店店長)

就労支援カフェココルーム

「誰かに話してみませんか〜いろいろしんどいよね〜」

12:00~17:00 相談無料 話し相手：神田くみこ

日頃なかなか話せないことをリラックスした気持ちで話してみませんか。話しちゃいけないことはないのですから。あなたのお話聞かせてください。

こんな人をお待ちしています。

- 話し相手がほしい●なんだかだるくて元気がない
 - ところが苦しい●人と関係がつかるのが苦手
 - うまく喋れない●あまり眠れない●仕事に悩むなど
- ※相談内容については秘密厳守になっています。

日時：

11月12日、19日、26日

12月3日、10日、17日、24日

1月7日、14日、21日、28日 (すべて土曜)

神田くみこプロフィール：

元小学校教員。

高校時代より自閉症児童との交流を目的としたボランティアサークルを設立し福祉活動開始(ボランティア歴24年)精神障害者社会復帰指導員を得て現在対人関係を苦手とする人たちの就労支援相談に力を注ぐ。

主婦・仕事・精神保健福祉士を目指す女子大生の三足の草鞋を履く〇〇歳…!

Schedule(2005年11月-2006年1月)

PPPP.C.B.N. cocoroom booking night 19:00 1500円+1d

11/18(金) Funeral Beer/ノイズわかめ/本上百貨店/他

11/24(木) サクライトモイキ/他

11/25(金) probare/他

12/6(火) No.305/大団円/他

12/16(火) probare/audio safari/他

12/23(祝金) 名前はまだなみプロデュースによるPPPP.C.B.N.

12/24(土) 狛犬マキプロデュースによるPPPP.C.B.N.

12/25(日) AnN-shitsuプロデュースによるPPPP.C.B.N.

「AnN-ROOM X'mas」 15:30 2000円 当日2500円(共に+1d)

出演:アヤコレット/トウヤマタケオ/ツアラツウストラ

(info)ann-shitsu.com

12/27(火) 出演者募集中! 12/30(金) 灯花舎/他

1/13(金)14(土)15(日)

名前はまだなみプロデュースによるPPPP.C.B.N.

1/20(金) 出演者募集中!

1/24(火) 出演者募集中!

1/27(金) 出演者募集中!

Chimes ~prick up your eyes~ 12:00~22:30 free

11/21(月)~12/4(日) 「ニチジョウソウイ」作家:駒野公仁子
路上生活されている方へのインタビュー、此花のごみ焼却
場の写真、釜ヶ崎夏祭りで出会った人々、アンケート集計
結果など

※11/26(土)11/27(日)にゴミひろいイベントも開催! 詳
細はweb cocoroomにて!

(info)lalalanlan@hotmail.com

上田假奈代の日常きもの指南 19:00~21:00 1500円

11/29(火),12/8(木),28(水),1/4(水)

※注1/4(水)は13:00から

要予約:ココールムまで(先着5名)

BOOKS ARCHIVES 20:00 入場無料(要1dチケット)

上田 12/12(月)第72夜 1/16(月)第75夜

ウォン 11/21(月)第71夜 12/19(月)第73夜

上田/ウォン 12/26(月)第74夜

11/28(月) 大阪市舞台助成公演

声と音のドラマリーディング「阿Q正伝」魯迅「阿Q」

20:00 前売り1800円 当日2000円(共に+1d)

声の人:上田假奈代(詩人)、ウォン・ジクスー(現代音楽家)

音の人:劔樹人(ミドリ)、加藤新(ミドリ)

Creation Goes On 19:30 出品者/見学者ともに500円+1d

毎月一週目の月曜日(変更あり)に開催される。現代美術をはじめと
するあらゆる作品表現行為の自由参加型プレゼンテーション企画
第9回目 12/5(月) 第10回目 1/10(火)

※出品者は18:30-19:00申し込み受付 担当:阿佐田

wataru@kanayo-net.com

浪速自転車 業務用自転車改造計画について語るvol.8

20:00~22:00 入場無料(要1dオーダー)

11/29(火) 要予約:ココールムまで(先着5名)

明治安田生命社会貢献プログラム

「エイブルアート・オンステージ」参加事業

ほうきぼしprojectワークショップ

毎週火曜日 13:00~15:00

参加者はいつでも大募集。ボランティアスタッフも募集中です。
参加アーティスト:コマイナース、飯島秀司、上田假奈代ほか
お問い合わせ:cocoroom@kanayo-net.com

11/22、12/6、12/13、12/20、1/10、1/17、1/24

@cocoroom (予定)

11/15 @長居障害者センター

11/29 @阿倍野区民センター

車椅子に乗ったスゴイ奴ら

「ほうきぼしブラザーズ(仮)」初見参!!

へなへな癒し系!!

12/18(日) 13:00~16:00

@敷津浦小学校 多目的室

(info)NPO法人み・らいず

TEL: 06-6683-5533 e-mail: me-rise@me-rise.com

■リラックシーズ

11/23(水祝) 時間料金詳細未定

■四方館 Dance Cafe(イベントスペースにて)

11/29(火) 19:00 500円+1d

Host:Tetsu Hayashida

(info)alpha_net@nifty.com

■むすびとクリスマス

12/11(日) 16:30 入場無料(要1dチケット)

むすびがクリスマス向けにつくった新作短編紙芝居を上演
します。

■即興表現WORKSHOP#18

12/14(水) 19:00 1500円+1d (見学の方も同額)

企画・参加:向井千恵ほか

(info)DQM06014@nifty.com

■オフ・シアターカフェ

12/15(木) 18:30 800円(1d付き)

(info)オフ・シアターカフェ運営委員会

sandaime_moritaya@yahoo.co.jp

■劇団びわこいっぴきめ「Bench!Bench!Bench!」

12/18(日) 11:00 15:00(二回公演)

前売り1500円 当日2000円 共に+1d

■リンゲージプロジェクト「コネクタルーム at cocoroom」

12/20(火) 19:00 1000円(1d付き)

■リンゲージプロジェクト「コネクタルーム at cocoroom」

1/17(火) 19:00 1000円(1d付き)

※その他、就労支援カフェ事業、第三回・大阪・アート・カレイド
スコープ、現代芸術祭プログラムのスケジュールは別頁参照

※1d表記のものは500円ドリンクチケットです。

※すべての開場は開演の30分前です。

cocoroomから飛び出す事業

詩の学校

受講料:1000円(筆記用具、ノート持参)

講師:上田假奈代

@應典院

11/30、12/7、12/21 すべて水曜

19:30~21:30 単発受講可

主催:NPO法人cocoroom 共催:應典院

http://www.outenin.com

大阪市天王寺区下寺町1-1-27 tel.06-6771-7641

@京都芸術センター

11/24、12/22、1/26 すべて木曜

19:00~21:30 単発受講可

主催:NPO法人cocoroom 共催:京都芸術センター

http://www.kac.or.jp

京都市中京区室町通錦糸町下る山伏山町546-2 tel.075-213-1000

声とことばのワークショップ

11/25、1/27 すべて金曜

13:30start 参加費無料

ナビゲーター:飯島秀司(音楽家)

会場:視覚障害者リハビリセンターライトハウスジョイフル

センター 大阪市鶴見区今津中2-4-37 tel.06-6961-5521

アクセス:JR学研都市線放出駅下車徒歩15分

上田假奈代 infomation

OWL 仕事研究会 第126回

12月3日(土) 18:00-20:00

会場:梅田東生涯学習ルームD会議室/3F

大阪市北区茶屋町1-40 元小学校舎

TEL&FAX: 0729-56-7484 E-mail: BZY12347@nifty.ne.jp

大阪NPOセンター・ひらかたNPOセンター運営協議会共催

社会起業家カフェ「セミナー&交流会」

12月6日(火) 13:30~16:00

行動する詩人・社会起業家上田假奈代が、事業の経緯、現
在の活動内容を語ります。

会場:ラポールひらかた研修室1(京阪枚方市駅前)

tel: 06-6460-0268 cafe@osakanpo-center.com

金沢市民芸術村アート工房オールナイトイベント

12月31日(土) 22:00~23:00

山本直木の作品とともに上田假奈代リーディングライブ

会場:金沢市民芸術村

石川県金沢市大和町1-1 tel.076-265-8300

http://www.artvillage.gr.jp

大和川レコード infomation

せんだいアートアニュアル2005 (エキシビジョン)

05/11/5(土)~11/20(日) 10:00-19:00

@仙台メディアテーク 入場無料

映像作品「街に揺られて」出品

主催:せんだいメディアテーク

tel. 022-713-4483 fax. 022-713-4485

mail: office@smt.city.sendai.jp

※その他、第三回 大阪・アートカレイドスコープ参加情報は別頁参照

大阪現代芸術祭プログラム

声は伝えるシリーズ

■せかいのせなかのことは

11/19(土) 19:00 20(日) 15:00 ※アーティストトークつき

前売2300円 当日2800円(共に+1d)

出演:砂連尾尾(振付家・ダンサー) / 上田假奈代(詩人)

/ 大和川レコード(アーティスト)

■虹のうた

12/22(木) 20:00 前売/2000円 当日/2300円(共に+1d)

出演:北村成美(なにわのコレオグラファー)

飯島秀司(音楽家) ほか 作詞参加:上田假奈代(詩人)

■屋上

日時:2006年1月28日(土) 一回目/15:30 二回目/19:30

前売/2000円 当日/2500円(共に+1d)

出演:藤本由紀夫(サウンドアーティスト)

大和川レコード(アーティスト)

※会場・お問合わせ:ココールム

主催:大阪市/(財)大阪都市協会

企画制作:特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

大阪楽座事業「読歩project#4」 はたらく ことば

大阪府議会傍聴に6日間通い、府庁職員20数名にインタビュー
し、その言葉に対し詩作に取り組んだ上田假奈代は、ここで
生きること、自らの生をひきうけていく意志を詩に託します。
グラフィックデザイナー・杉崎真之助は、点字を使うという条
件のもと、上田の詩の言葉を配置し、視線とココロをつなぎと
めるデザインワーク作品を制作しました。

◆展覧会「はたらくことば」

詩人・上田假奈代/グラフィックデザイナー・杉崎真之介

会場:大阪府庁本館 地下1階~6階まで

展示期間:2005年12月20日(火)~2006年1月18日(水)

/12/29~1/3と土日祝は除く

時間:午前9時~午後5時

◆オープニングミニライブ

「おひるやすみのはたらくことば」

会場:大阪府庁本館正面玄関 日程:2005年12月20日(火)

時間:午後12時20分~55分 料金:無料

出演:上田假奈代(詩人) 北村多恵(声楽家)

◆視覚障害者と聴覚者による大阪府庁とアート体験ツアー

「読歩project#4 はたらくことば」

会場:大阪府庁本館 地下1階~6階まで

日程:2006年1月6日(金) 時間:午後1時半~午後4時

集合:午後1時10分、

大阪市営地下鉄「谷町四丁目」北改札 谷町線大日側

ツアー参加費:1000円(1drink付)

要予約制(20名):06-6636-1612

主催:読歩project実行委員会

共催:特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

後援:社会福祉法人日本ライトハウス/財団法人大阪府視覚障

害者福祉協会/エイブル・アート・ジャパン/大阪NPOセンター

大阪府 大阪楽座事業

FREE

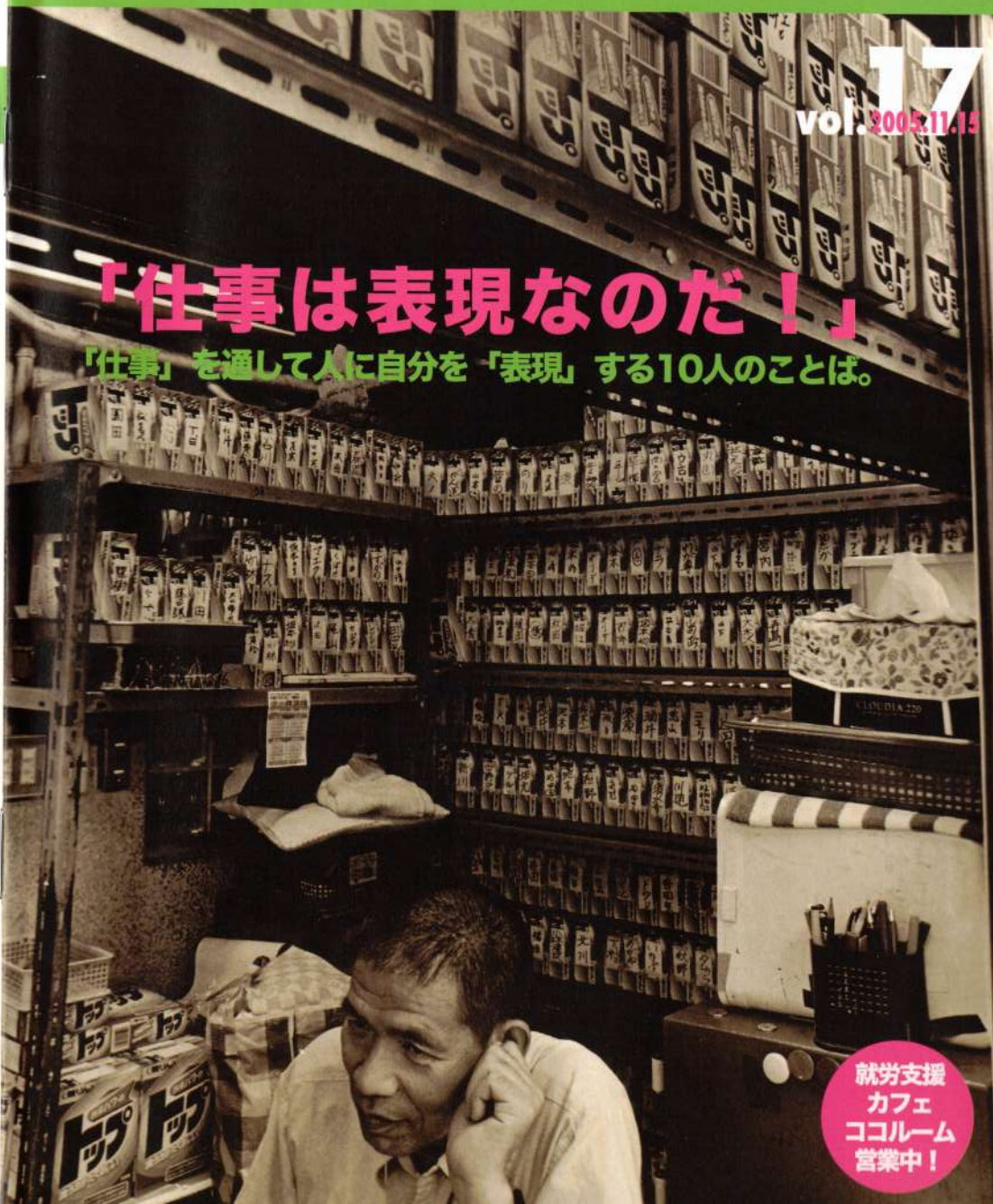
COCOROOM ぼえ犬通信
特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋
http://www.kanayo-net.com/cocoroom/

ぼえ犬通信

ぼえ犬通信

17

vol. 2005.11.15



「仕事は表現なのだ！」

「仕事」を通して人に自分を「表現」する10人のことば。

特集 仕事は表現なのだ！

http://www.kanayo-net.com/cocoroom/ ぼえ犬通信 特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋 2005 © cocoroom All Rights Reserved

就労支援カフェ事業インターンシップ。アート現場で働いてみよう！！

PPPP.C.B.N. cocoroom booking night
ブックンガマネージャー募集!!

出来る事から動かしてゆく
動かしながら考える
アートマネジメントの第一歩へ

ココルームカフェも
スタッフもどむ

※cocoroom@kanayo-net.comまで

於集電脳女流詩人
交流向上百花繚乱
詩的空間月毎更新
随時求新同胞以愛

蘭

Web 女流詩人の蘭の会

http://www.os.rim.or.jp/~orchid/

Cocoroomでは、寄付をつっています。

運営のための寄付をつっています。ご寄付いただいた方には、お名前を「ぼえ犬通信」に掲載させていただきます。3000円/1口 何口でも結構です。

富前のかげ ありがとうございます。

三井住友銀行 天王寺駅前支店 普通1585265
トクティエイリカツドウホウジンコトバココロノヘヤ

郵便振替 記号01090-5-48059
cocoroom代表 ウエダカナヨ

むすびプロジェクト NHK総合「関西クローズアップ」にむすびが取り上げられました！

「むすび」とは/日雇い労働者の街・釜ヶ崎で活動する平均年齢74歳のおじさんたちによるサークル。手作り紙芝居による公演で、観る人に笑いと感動を与え続けています。

*一緒に紙芝居をやってくれる仲間*絵を書いたり、道具をつくりたりお手伝いをしてくださる方*事務所を訪れてメンバーと気軽に話してください。

ブログ: http://musubiproj.exblog.jp/
※紙芝居・釜ヶ崎見学ツアーの申込みは
ココルーム むすびプロジェクト係

cocoroomがますます使いやすくなって 劇団バック「co屋」

- co屋5日間パック(木金土日)15万円
 - co屋4日間パック(木金土・金土日)13万円
 - co屋3日間パック(金土日)10万円
 - co屋2日間パック(土日)8万円
- 1日利用の場合:5万円/1日(夕方17:00からの使用は3万円)
info: ココルーム tel.06-6636-1612
tel&fax06-6636-1662
cocoroom@kanayo-net.com
担当: 飯島、阿佐田、上田、劔(つるぎ)
- *ステージ数問わず一律料金
 - *使用時間10:00~22:30*仕込・ばらし含む
 - *月曜は18:00まで*機材管理料含む(音響スタッフはつきません)
 - *稽古使用は3万円*その他の曜日可
 - *お客様には入場の際1ドリンク(500円)別途必要
 - *情宣協力いたします!
- キャバ椅子席:60 ●舞台スペース6×6m
 - 音響システム完備 ●照明:調光3系統(店舗用)
 - 定める使用規定にもとづいてください。
 - くわしくはココルームまでお問い合わせください。



特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

COCOROOM

zip556-0002 大阪市浪速区恵美須東3-4-36
フェスティバルゲート4F
tel.06-6636-1612 tel&fax. 06-6636-1662
http://www.kanayo-net.com/cocoroom/

※地下鉄御堂筋線・堺筋線「動物園前駅」5番出口直結
※大阪市営バス「地下鉄動物園前停留所」すぐ
※JR 環状線・関西線「新今宮駅」下車 徒歩すぐ
※南海電鉄本線・高野線「新今宮駅」下車 徒歩5分
※阪堺電軌鉄道「南霞町駅」下車 徒歩すぐ
※駐車場(有料)

■新世界アーツパーク http://www.sap.s-jp
「バーター依頼/ココルームでフレイヤーやフリーペーパー配布協力いたします。また、「ぼえ犬通信」を配布させていただけるお店の方、ご連絡下さい。

就労支援カフェココルーム 本事業は大阪市がNPO法人こえとことばとこころの部屋に委託して実施しています。

就労支援
カフェ
ココルーム
営業中!